

寄附講座「難病・高齢医療学講座」の設置

住み慣れた地域での暮らしを支える医療

難病・高齢医療学講座 教授

越智博文

私の専門は多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症等を含む免疫性神経難病という領域です。それらの疾患の免疫遺伝学的背景や、それによる患者さんの経過、疾患の多様性との関係を研究してきました。2011年に愛媛大学に赴任して以降は、アルツハイマー型認知症やパーキンソン病といった神経変性疾患にも対象を広げて研究をしています。

今回の寄附講座は新居浜市による寄附と、十全総合病院や新居浜市医師会の先生方の協力で開かれました。現在は、サテライトセンターである十全総合病院で、私が週に2回の脳神経内科外来、檜垣彰典先生が週1回の循環器内科外来での診療を行っています。今後は、大学の脳神経内科・老年医学講座、循環器・呼吸器・腎高血圧内科学（第二内科）と協力し、私たちに続く世代を育成し、新居浜・西条医療圏の地域診療を支えたいと考えています。今後の地域医療で求められることは、診断・治療がその地域で完結するだけでなく、患者さんとその家族の暮らしを支えることです。地域の中で医師が、保健所や地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護施設の方々と密に連携し、患者さんの治療やリハビリ、生活を支援する医療を目指します。



PROFILE

おちひろふみ◎愛媛県出身。2000年に九州大学にて博士（医学）を取得。2011年から愛媛大学大学院医学系研究科の加齢制御内科学の講師として着任。老年・神経・総合診療内科学の講師、准教授を経て、2022年6月より現職。趣味は旅行、コロナ禍が収まれば北欧へ。